

式辞 令和7年度第3学期終業式

皆さん、おはようございます。

今日で今年度の学校生活の一区切りを迎えます。この一年を振り返り、それぞれがどのような歩みを重ねてきたのか、少し立ち止まって考えてみてほしいと思います。

私はこの一年、皆さんにいくつかのことを伝えてきました。

失敗を恐れずチャレンジすること。人を思いやる心を持つこと。何かを決断するために悩んだ時は、まず判断材料を集めること。そして、誰かと何かを成し遂げるためには、謙虚に人の話を聞くことから始めようということです。

また、「人間万事塞翁が馬」という言葉も紹介しました。人生には、思い通りにいくこともあれば、そうでないこともあります。しかし、その出来事が良いことなのか悪いことなのかは、その時には分からないものです。大切なのは、起きた出来事から何を考え、何を学ぶかということです。今一度話を思い起こしながら、これからの人生に生かしてほしいと思っています。

今年は、先日まで熱戦が繰り広げられましたWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）が大きな話題となりました。残念ながら日本代表は惜しくも敗退してしまいましたが、世界のトップ選手たちが国の誇りを背負い、全力でプレーする姿は、多くの人々の心を動かしました。

その姿を見ていると、改めて感じるがあります。

今、世界の舞台で活躍している選手たちも、最初からすべてができたわけではないということです。うまくいかない経験や悔しい思いを何度も重ねながら、それでも「どうすればできるようになるのか」を考え続けてきたからこそ、今の姿があります。

皆さんも、この一年の中で、できないことやうまくいかないことに出会ったことがあったと思います。

しかし、そのときに一度でも「どうすればできるだろう」と考えたなら、それはすでに成長の始まりです。

できないことに出会ったとき、そこであきらめる人と、「どうすればできるのか」と考える人では、その先の人生は大きく変わります。

挑戦する人には失敗もあります。しかし、その失敗の中には、必ず次の成長の種があります。どうか、失敗を恐れず、考え続けてください。

そして、自分の可能性を信じて、一歩前へ進んでください。

この一年を振り返ると、皆さんが仲間と協力しながら学校行事や部活動、日々の授業に真剣に取り組んでいる姿を、私は多くの場面で見ることができました。そうした一つ一つの積み重ねが、皆さんの成長につながっているのだと思います。

皆さん一人一人の成長が、この学校を輝かせ、そしてこの北条の地域を輝かせる力になることを信じています。

4月から、この場所には北条清新高校が開校します。北条高校と北条清新高校、2つの学校が同じ校地で学ぶ新しい環境が始まります。皆さんには、この新しい環境を前向きに受け止め、互いに学び合いながら、成長していってほしいと思っています。

これまで長い年月にわたり、北条高校を見守り続けていただいているこの北条地域に恩返しするべく、この地域をさらに元気に、さらに輝かせる学校になってほしいと願い、今年度最後の式辞といたします。

令和8年3月19日

愛媛県立北条高等学校長 菊池 正敏